

2/28

早春賦で鶯を思い出し、確か鶯が出てきたと思った別の歌につき、断片的に浮かんできた歌詞を頼りに google で検索して見つかった懐かしい歌は鶯ではなくてホトギスでした:

『ほととぎす(暗路)』

HER BRIGHT SMILE HAUNTS ME STILL

【訳詞】近藤 朔風

【作曲】WRIGHTON WILLIAM THOMAS

お暗き夜半を ひとり行けば
雲よりしばし 月はもれて
ひと声いずこ 啼くほととぎす
見かえるひまに すがた消えぬ
夢かとばかり なおも行けば
またも行く手に 闇はおりぬ

別れし友よ 今はいずこ
今宵の月に 君を想えば
心はうつろ 思い出消えず
悩める胸に 帰るは彼の日
星影だより 共に語りし
昔の言葉 今ぞしのぶ

It's been a year/ since last we met
We may never meet again
I have struggled to forget
But the struggle was in vain
For her voice lives on the breeze
And her spirit comes at will
In the midnight on the seas,
her bright smile haunts me still

At the first sweet dawn of light

When I gaze upon the deep
Her form still greets my sight
While the stars their vigils keep
When I close mine aching eyes
Sweet dreams my senses fill
And from sleep when I arise,
her bright smile haunts me still

I have sailed beneath alien skies
I have trod the desert path
I have seen the storm arise
Like a giant in his wrath
Every danger I have known
That a reckless life can fill
Yet her presence is now flown,
her bright smile haunts me still

ホトギスが出てくるといえば、ちょっと早過ぎますが、夏は来ぬ:

『夏は来ぬ』

作詞:佐々木信綱 作曲:小山作之助

卯の花の、匂う垣根に
ほととぎす、早も来鳴きて
しのびねもらす、夏は来ぬ

さみだれの、そそぐ山田に
早乙女が、もすそぬらして
玉苗植うる、夏は来ぬ

橘の、薫るのきばの
窓近く、蛍飛びかい
おこたり諫むる、夏は来ぬ

おうちちる、川べの宿の
門遠く、くいな声して

夕月すずしき、夏は来ぬ

五月やみ、蛍飛びかい
くいな鳴き、卯の花咲きて
早苗植えわたす、夏は来ぬ

ホトギスは托卵鳥で、鶯などの巣に卵を産んで鶯に孵してもらったりするのでしたね。托卵鳥といえば、カッコウか。。

2/24

朝、勤務先への路地にもちらほら花が咲いてきて春も近いと感じられます。思い出す歌は「春よ来い」。若い方は松任谷由実さんの「春よ来い」を思い出されるかもしれませんが、私はやっぱり相馬 御風作詞、弘田 龍太郎 作曲の童謡です：

『春よ来い』

作詞：相馬御風 作曲：広田龍太郎

春よ来い 早く来い
あるきはじめた みいちゃんが
赤い鼻緒の じょじょはいて
おんもへ出たいと 待っている

春よ来い 早く来い
おうちの前の 桃の木の
蕾もみんな ふくらんで
はよ咲きたいと 待っている

孫に歌ってやりたいと思います。

『早春賦』 2/18

作詞：吉丸一昌 作曲：中田 章

春は名のための風の寒さや

谷の鶯 歌は思えど
時にあらずと 声も立てず
時にあらずと 声も立てず

氷解け去り葦は角ぐむ
さては時ぞと 思うあやにく
今日もきのうも 雪の空
今日もきのうも 雪の空

春と聞かねば知らでありしを
聞けば急かる 胸の思を
いかにせよとの この頃か
いかにせよとの この頃か